

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A11	取組 名称	宮津市のまちづくりに対する京都府立大学の地域貢献のあり方に関する 調査研究
研究代表者： 公共政策学部 職・氏名： 准教授 菱木 智一			
研究担当者： 京都府立大学：公共政策学部（青山公三、小沢修司、杉岡秀紀）、生命環境科学研究科（三橋俊雄）、 京都政策研究センター（村山紘子） 宮津市：自立循環型経済社会推進室（小池康文）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
・宮津市			
【研究活動の要約】			
<p>本調査研究は、市民が主体的に宮津市街地のまちづくり構想の策定に取り組む「宮津まちづくり会議」に、京都府立大学のメンバーがコーディネーターとして参画し、構想策定に関わっていく中で、京都府立大学が連携協力包括協定を締結している宮津市のまちづくりに対する京都府立大学の地域貢献のあり方について、探っていこうとしたものである。</p> <p>同会議は、十数名の委員と、約40名のワーキングメンバーで構成され、半年間にわたって少人数グループによるワークショップ形式で構想づくりを進めた。</p> <p>また、本研究の参考とするため、海辺の商業施設としてにぎわいを見せている山口県萩市の萩しーまーとに視察調査を行った。またこれと比較するべく、宮津近隣の海辺の道の駅「舟屋の里伊根」「てんきてんき丹後」「くみはまSANKAIKAN」を視察するとともに、北前船の寄港地として古い町並みを残している広島県福山市鞆の浦へも調査を行った。</p>			
<p><活動状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26. 6. 24 まちづくり会議：今後の進め方を確認 ・H26. 7. 15 WG：メンバー自己紹介、今後の進め方を確認 ・H26. 7. 25 北前船寄港地フォーラム in 宮津・京都に参加 ・H26. 8. 22 まちづくり会議：先進地視察等について協議 ・H26. 11. 21 まちづくり会議：委員の交代とWGの改組 ・H26. 12. 4 第1回WG：市街地の現状把握と課題の整理 ・H26. 12. 25 萩しーまーと視察調査 ・H26. 12. 26 鞆の浦視察調査 ・H27. 1. 7 第2回WG：公園・海辺ゾーンの活用について意見交換 ・H27. 1. 15 第3回WG：既存施設の活用方策について意見交換 ・H27. 1. 26 第4回WG：宮津駅及びその周辺の整備について意見交換 ・H27. 2. 9 第5回WG：大手川の利活用について意見交換 ・H27. 2. 16 まちづくり会議：中間報告の発表・公表 ・H27. 2. 25 第6回WG：中心市街地の活性化について意見交換 ・H27. 2. 26 丹後にある道の駅（3箇所）視察 ・H27. 3. 16 第7回WG：中心市街地へ呼び込むターゲット層について意見交換 ・H27. 3. 30 第8回WG：市街地活性化戦略について意見交換 <p>※ 上記以外にも、市及び宮津市商工会議所（宮津まちづくり会議事務局）と随時打合せを実施</p>			

【研究活動の成果】

- ① まちづくりは、行政に委ねるのではなく、その主体となるのは市民であり、市民自らが考え、造っていくべきものであることについて、会議に参加した宮津市民が実感でき、市民意識の高揚や熟成が図れた。
- ② 市民が主導するまちづくり構想の策定に、宮津市役所職員や宮津商工会議所職員がスタッフとして関わる経験をする中で、市民の知恵や英知を市政やまちづくりに活かしていくことの大切さや、真に市民ニーズにマッチした施策づくりのあり方を学ぶことができた。
- ③ 府立大学がまちづくりに参画することで、外部の視点を加え、地元の人たちに新たな気付きをもたらすことを実感できた。また、行政への要求型の態度を市民が示した際にも、第三者的な立場、両者の緩衝材的な立場から、的確に軌道修正させることができることも府立大学の重要な役割であることが実感できた。

【研究成果の還元】

本調査研究での研究成果は、住民主体のまちづくり構想策定とその場面における行政と大学との連携・協働のあり方として、普遍的な内容を含んでいることから、次のような取組を通じて、研究成果の地域への還元を図る。

- ① 「宮津まちづくり会議」から浜町及び浜町周辺地域の活性化戦略として広く宮津市民へ発表・公表
- ② 宮津市民の議論を経て、順次実施

【お問い合わせ先】 公共政策学部 京都政策研究センター 職名：准教授 菱木 智一
Tel: 075-703-5319 E-mail:hishiki@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）

(萩しーまーとの店内)



(軈の浦のまちなみ)



北前船の寄港地として栄えた往時のまちなみが非常によく残っている。

(丹後半島の道の駅)



丹後一円だけでなく、隣接県も含めてのパンフの掲示



地元産材を意識したメニュー



名物のへしこを使った定食